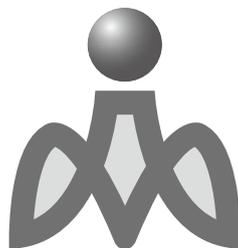


山 梨 県

商工会地区

# 中小企業景況調査報告書

〔平成24年1月～3月実績〕  
〔平成24年4月～6月予測〕



未来に敏感、人が中心

山梨県商工会連合会



# 目 次

I 調 査 要 領 .....	1
II 景 況	
1. 産業全体の業況概観 .....	2
2. 製造業の動向	
(1) 景 況 概 観 .....	3
(2) 主な項目でみる業況 .....	3
3. 建設業の動向	
(1) 景 況 概 観 .....	6
(2) 主な項目でみる業況 .....	6
4. 小売業の動向	
(1) 景 況 概 観 .....	9
(2) 主な項目でみる業況 .....	9
5. サービス業の動向	
(1) 景 況 概 観 .....	12
(2) 主な項目でみる業況 .....	12



## 【I】 調査要領

### 1. 調査対象

- (1) 対象地区 11商工会
- (2) 対象企業数 165企業
- (3) 回答企業数 165企業

### 2. 調査対象期間

- 第4四半期 平成24年1月～3月期
- 調査時点 平成24年3月1日

### 3. 調査方法

県下の調査対象企業を11商工会の経営指導員が訪問面接調査

### 4. 調査対象企業（モニター企業）の商工会別、業種内訳

商工会名	製造業	建設業	小売業	サービス業	計
都留市	3	2	4	6	15
韮崎市	3	3	4	5	15
南アルプス市	3	2	4	6	15
北杜市	4	2	5	4	15
笛吹市	3	2	4	6	15
上野原市	3	3	4	5	15
甲州市	3	3	4	5	15
中央市	4	2	6	3	15
身延町	4	2	5	4	15
富士川町	3	2	4	6	15
河口湖	4	2	6	3	15
計	37	25	50	53	165

### 5. その他

①本報告書のD Iとは、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目について前年同期と比較して、増加（上昇、好転、長期化等）とする企業割合と、逆に減少（低下、悪化、短期化等）とする企業割合の差を示すものである。

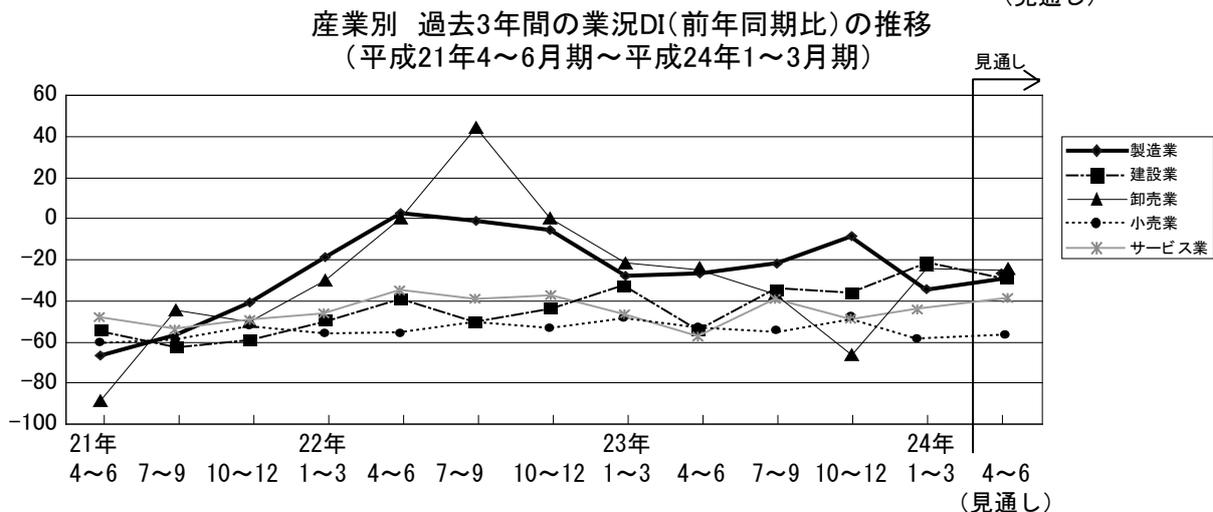
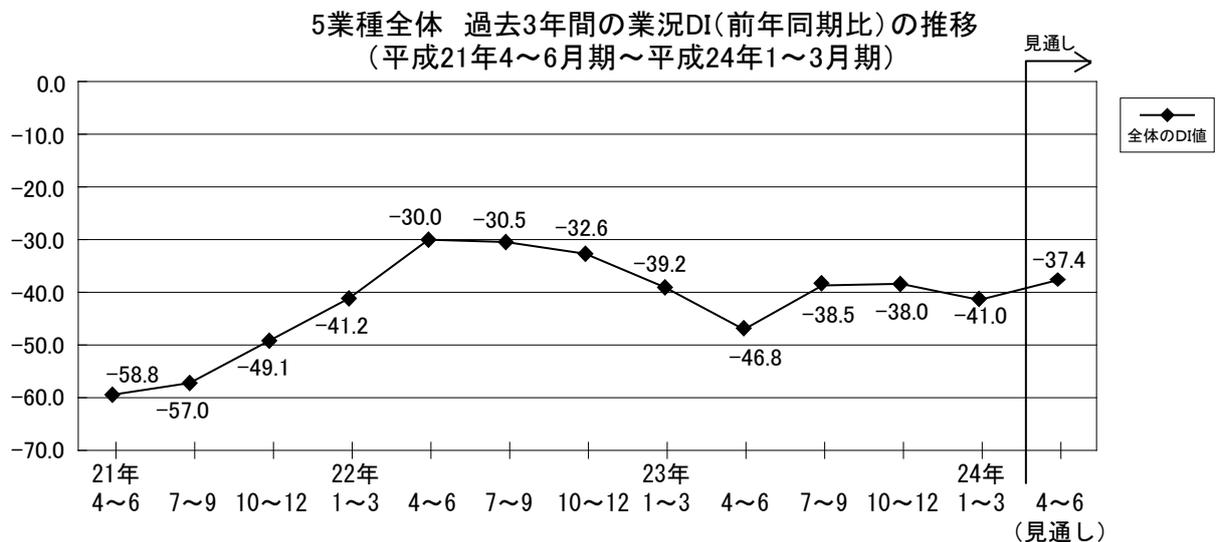
②次頁【II】1. 産業全体の業況概観・・・については、本県商工会地区の企業ばかりでなく本県全体の被調査企業（卸売業を含む）287サンプルによるものである。

## 【Ⅱ】 景 況

### 1. 産業全体の業況概観

本県5業種の業況概観について、調査対象287企業のデータに基づいて産業別の業況DIを示す。まず下記の上図は、過去3年間の5業種全体の業況判断DIを表したものである。今期業況DIは前期マイナス38.0から3.0ポイントの悪化でマイナス41.0となった。

下図は景況感を前年同期と比較して、過去3年間の推移を本県製造業、建設業、卸売業、小売業、サービス業5業種別に示したものである。製造業は、前期に大きく改善しマイナス8.5となったが、その反動であろうか今期にはマイナス34.7と26.2ポイント低下した。来期の見通しについては、10ポイント近くの改善でマイナス25.4である。建設業は、前記マイナス36.1から15.1ポイント上昇しマイナス21.0であった。来期の見通しは、再びの低下でマイナス27.8である。卸売業は、前期に大幅な悪化のマイナス66.7であったが、マイナス22.3と大幅な改善を見せた。来期の見通しについては、いくらかの悪化のマイナス25.0である。小売業は、前期マイナス51.4であったが6.6ポイント悪化しマイナス58.0であった。来期の見通しは、ほんの僅かな改善のマイナス55.6である。最後にサービス業であるが、前期マイナス48.8であったが約5ポイント上昇しマイナス43.9となった。来期の見通しについては、さらに改善傾向を見せマイナス37.4である。今期は、建設業、卸売業、サービス業の3業種が改善し、製造業と小売業が悪化した。



【注記】上記、産業全体の業況概観については、商工会調査対象165企業に甲府・富士吉田地域からの122企業を含めた287サンプルを使用しております。

卸売業については、中小企業基盤整備機構調査によるデータのみを使用しております。

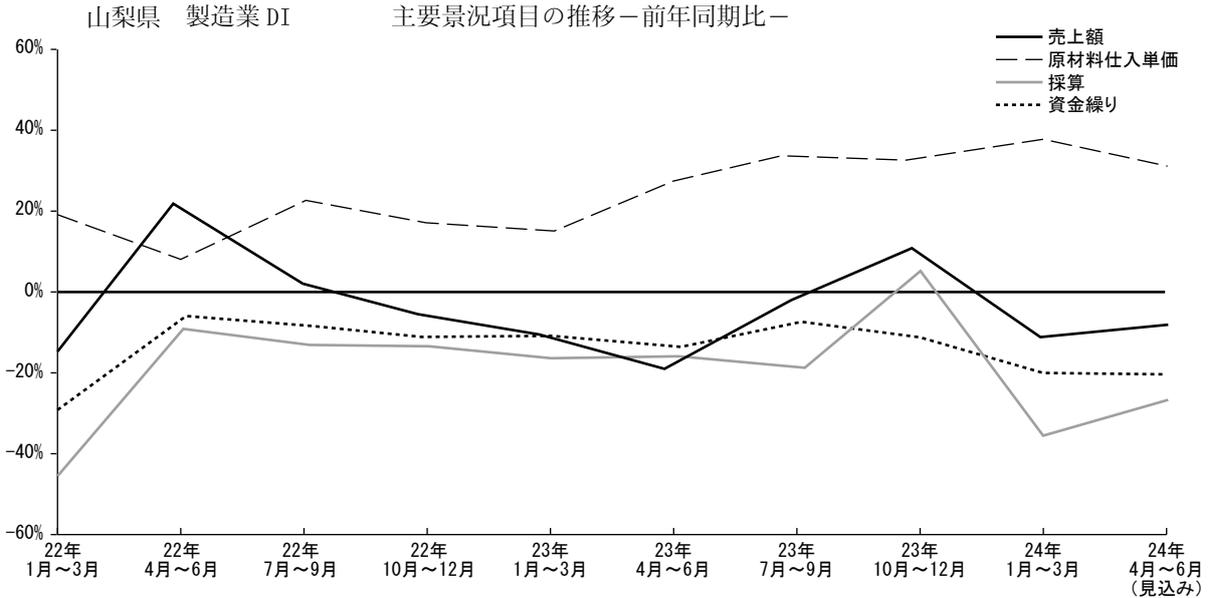
次ページからの産業別景況DIについては、商工会地区企業のサンプル分析に基づくものです。

## 2. 製造業の動向

### 1. 景況概観

下図は、製造業の「売上額」「原材料仕入単価」「採算」「資金繰り」について、平成22年1～3月期からの推移状況を表わしたものである。売上額DIについては、前期に徐々にプラスに転じ10.9であったが、今期は再びマイナスに落ちマイナス10.9であった。来期の見通しについては、ほぼ横ばいのマイナス8.1である。

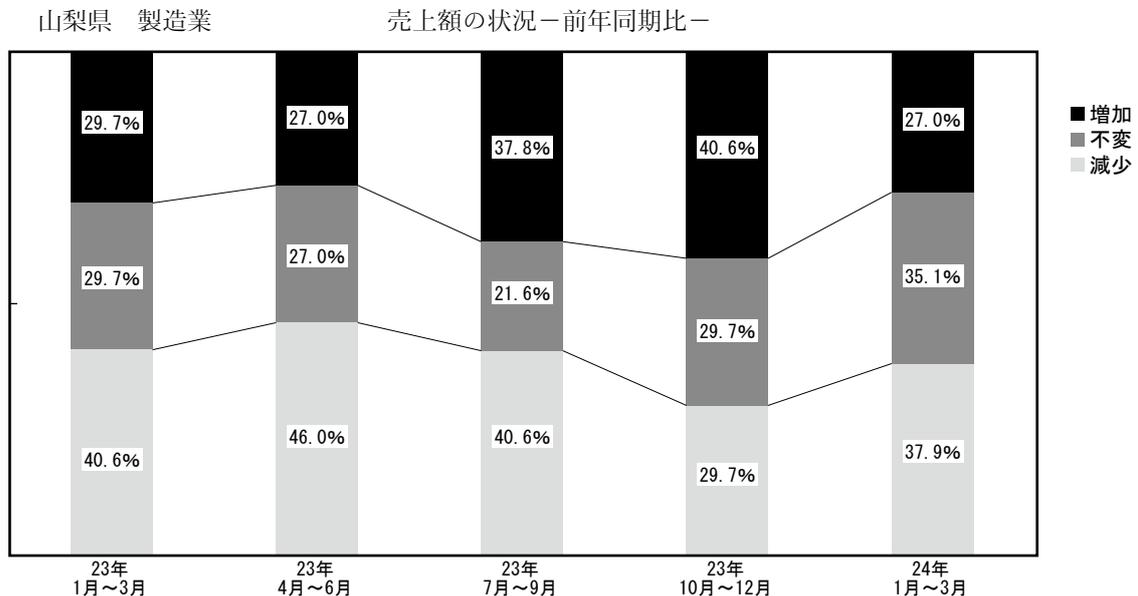
原料仕入単価DIは、前期33.3から5.4ポイント上昇し38.7であった。来期の見通しについては、32.3と前期レベルに戻る。だが、この1年間上昇傾向にあることは気がかりだ。採算DIは、前期大幅な改善を見せプラス5.4となったが、今期は前々期より悪くマイナス35.1となった。来期の見通しについては、多少の改善でマイナス27.0である。資金繰りDIは、前期マイナス11.1から8.9ポイント悪化のマイナス20.0であった。来期の見通しも今期と全く変わらないDIである。



### 2. 主な項目で見る業況

#### (1) 売上額

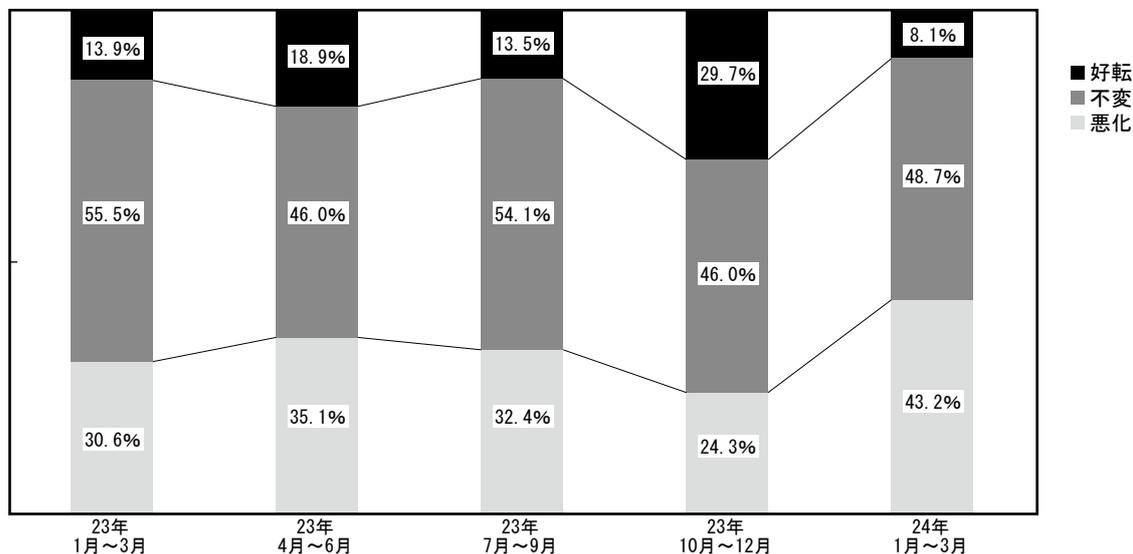
下図は、過去1年間の「売上額」の前年同期比で見た増減状況の推移を示したものである。ここでは、前記した当期の売上額DI マイナス10.9となった回答の中身を見てみよう。「増加」と答えた企業の割合は前期15社の40.6%から10社に減り27.0%であった。「不変」は前期11社の29.7%から2社増の35.1%、「減少」は前期11社の29.7%から3社増え37.9%となった。今期DIの悪化は、「増加」と答えた企業数の低下が大きな要因であると言える。



(2) 採算

本調査では、経常利益を「採算」として尋ねている。今期の採算D I マイナス 35.1 についても、その詳細を見てみよう。「好転」が前期 11 社 29.7% から 3 社へと大きく減り 8.1% に、「不変」は前期 17 社の 46.0% から 1 社増の 48.7%、「悪化」は前期 9 社 24.3% から 7 社増の 43.2% となった。売上額との相関性が強い「採算」の悪化についても、「好転」の減少と「悪化」の増加が顕著であったことが原因である。

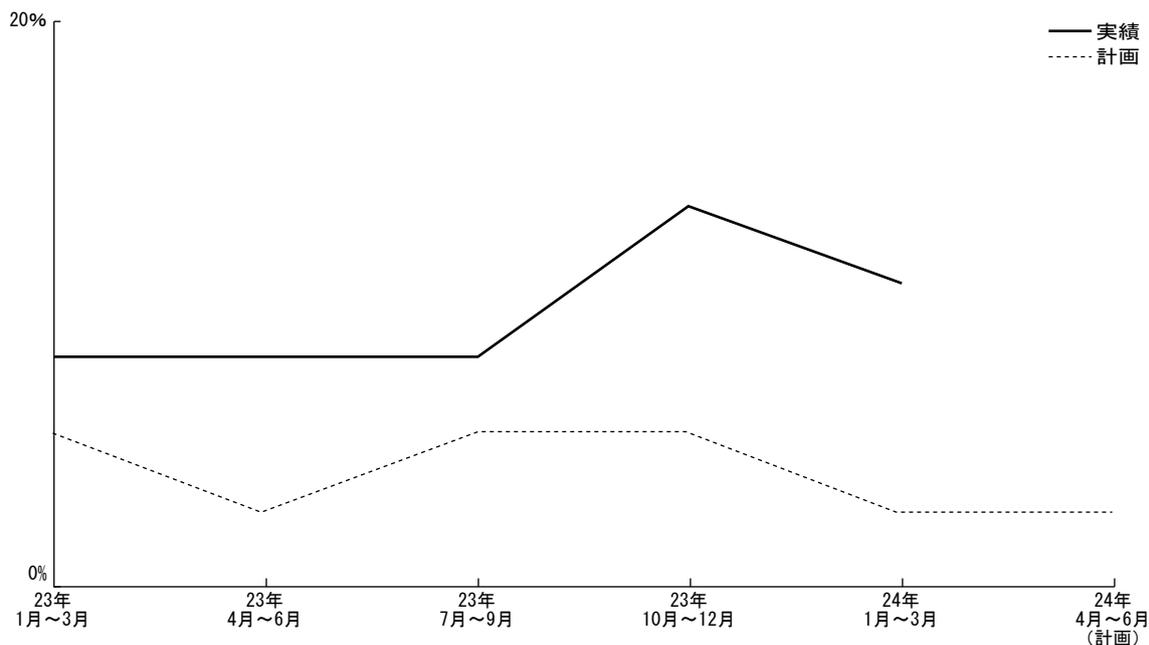
山梨県 製造業 採算の状況－前年同期比－



(3) 設備投資

下図は、過去1年間余りの「設備投資」の状況を示したものである。前期には設備投資を行った企業が5社と多かったが、今期は1社減の4社が実施した。その設備投資内容は、「生産設備」が4件、「OA機器」が1件であった。来期において計画を予定している企業は1社のみである。設備投資の内容は「工場建物」と「生産設備」であり前記の計画内容と同様であることから、どうも当該回答企業が当期の計画を先送りしたのではないかと推測されるのである。

山梨県 製造業 設備投資の状況



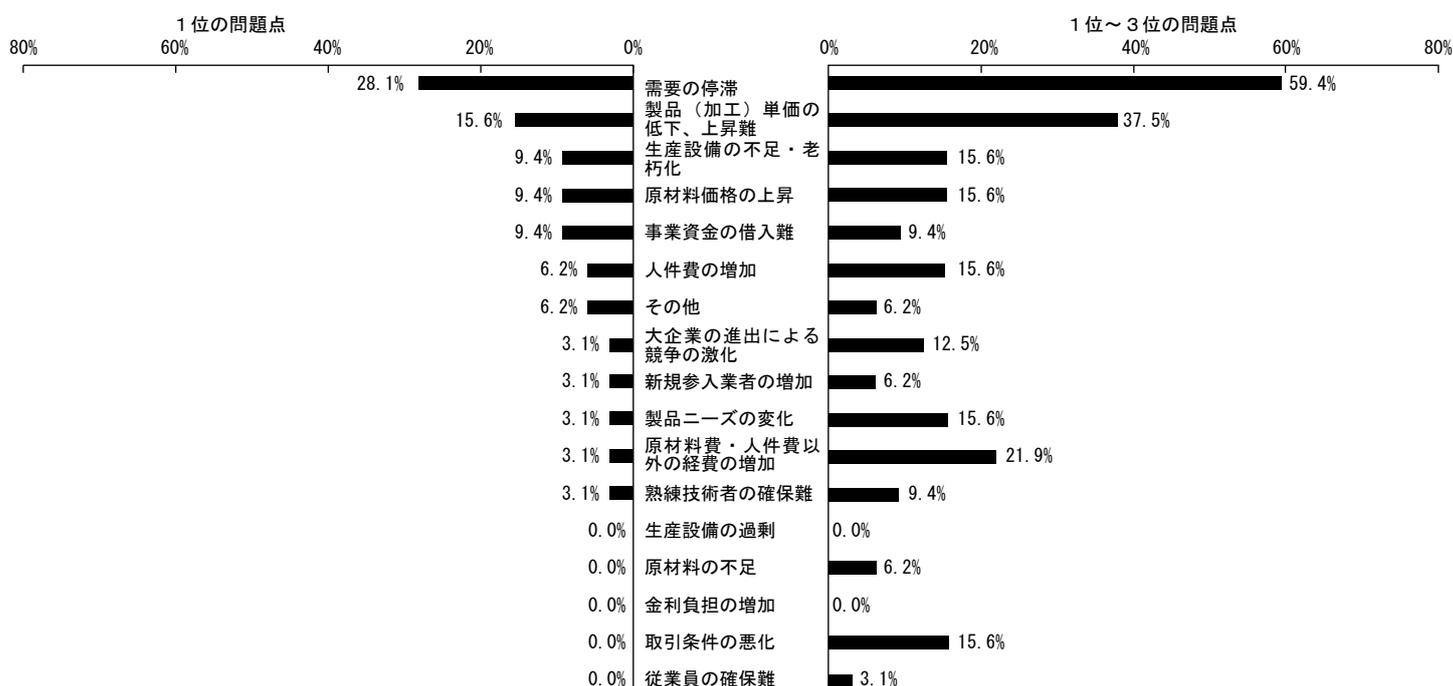
(4) 経営上の問題点

製造業における「経営上の問題点」は、下図のとおりである。まず最優先事項の問題点である「一位」に挙げたものから見ていくと、「需要の停滞」を9社が挙げ前期より4社増えて28.1%と最も多い。次いで「製品（加工）単価の低下、上昇難」が前期と変わらず5社で15.6%であった。さらに、「生産設備の不足・老朽化」「原材料価格の上昇」「事業資金の借入難」が各3社の9.4%と続く。

次に「一～三位」を見ると最も多い答えは、やはり「需要の停滞」で19社の59.4%である。前記した売上額や採算D Iで見られた悪化状況と、経営上の問題点のトップである「需要の停滞」はリンクしているようだ。2番目に多かったのは、こちらも「製品（加工）単価の低下、上昇難」で前期より1社減少し12社が挙げ37.5%であった。

続いて、「材料費・人件費以外の経費の増加」で前期より2社減り7社の21.9%であった。そして、「製品ニーズの変化」「生産設備の不足・老朽化」「原材料価格の上昇」「人件費の増加」「取引条件の悪化」の5回答が5社15.6%と続いている。

山梨県 製造業 経営上の問題点の状況（一位と一位～三位）



(5) 回答企業の内訳

業種別

業種	企業数	構成比(%)
食料品製造業	8	21.6
印刷・同関連業	3	8.1
化学工業	1	2.7
プラスチック製品製造業	5	13.5
窯業・土石製品製造業	2	5.4
金属製品製造業	1	2.7
一般機械器具製造業	8	21.6
電気機械器具製造業	1	2.7
輸送用機械器具製造業	3	8.1
その他製造業	5	13.5
合計	37	100.0

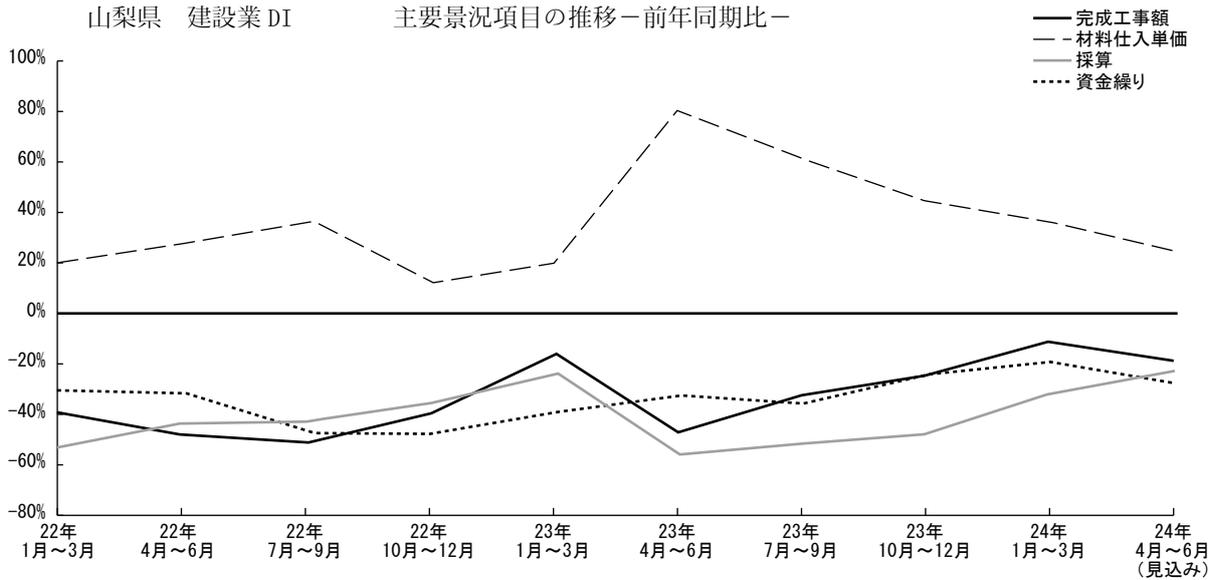
従業員規模別

従業員数	雇用形態		臨時等含む	
	常雇い	臨時等含む	企業数	構成比(%)
2人以下	17	45.9	12	32.4
3人～5人以下	9	24.3	10	27.0
6人～10人以下	5	13.5	7	18.9
11人～20人以下	2	5.4	2	5.4
21人～50人以下	4	10.8	6	16.2
合計	37	100.0	37	100.0

### 3. 建設業の動向

#### 1. 景況概観

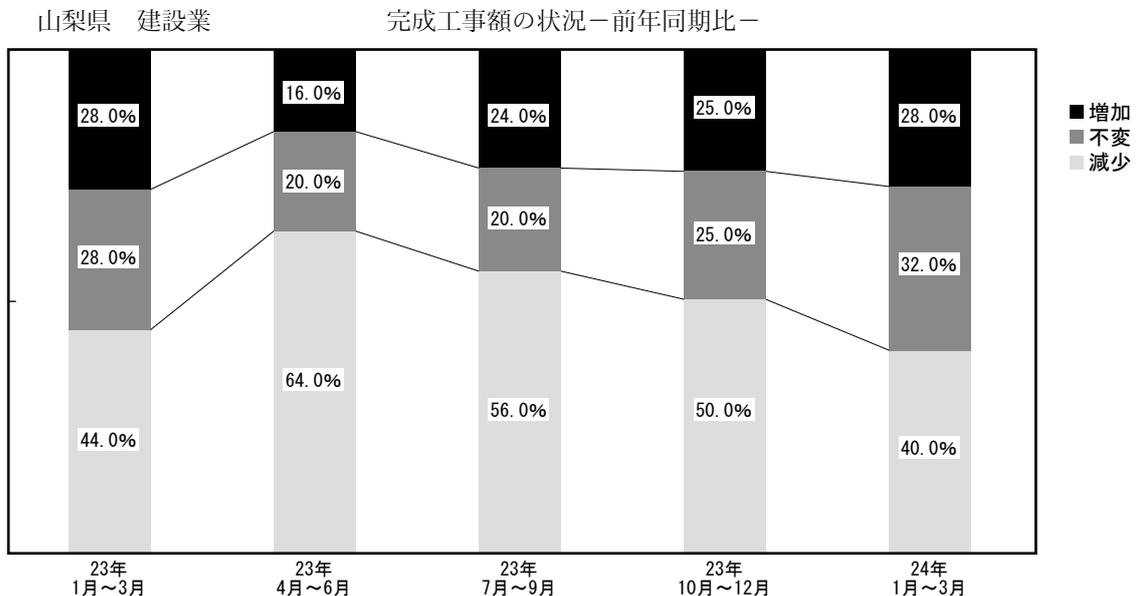
完成工事額D Iは前期マイナス25.0であったが、13.0ポイント改善しマイナス12.0となった。来期の見通しについては、逆戻りして8.0ポイント悪化のマイナス20.0である。建設業にあって、年度末に改善する傾向は続いているようだ。材料仕入単価D Iは、前期43.5から36.0へと今期も改善を見せた。来期の見通しについても、さらに低下し24.0である。採算D Iについても、前期マイナス47.9から15.9ポイント改善してマイナス32.0となった。来期の見通しも、マイナス24.0と改善傾向は続く。資金繰りD Iは、前期マイナス25.0から5ポイントの改善でマイナス20.0であった。来期の見通しは、8.0ポイント悪化し3期ぶりにD Iが低下する。



#### 2. 主な項目で見る業況

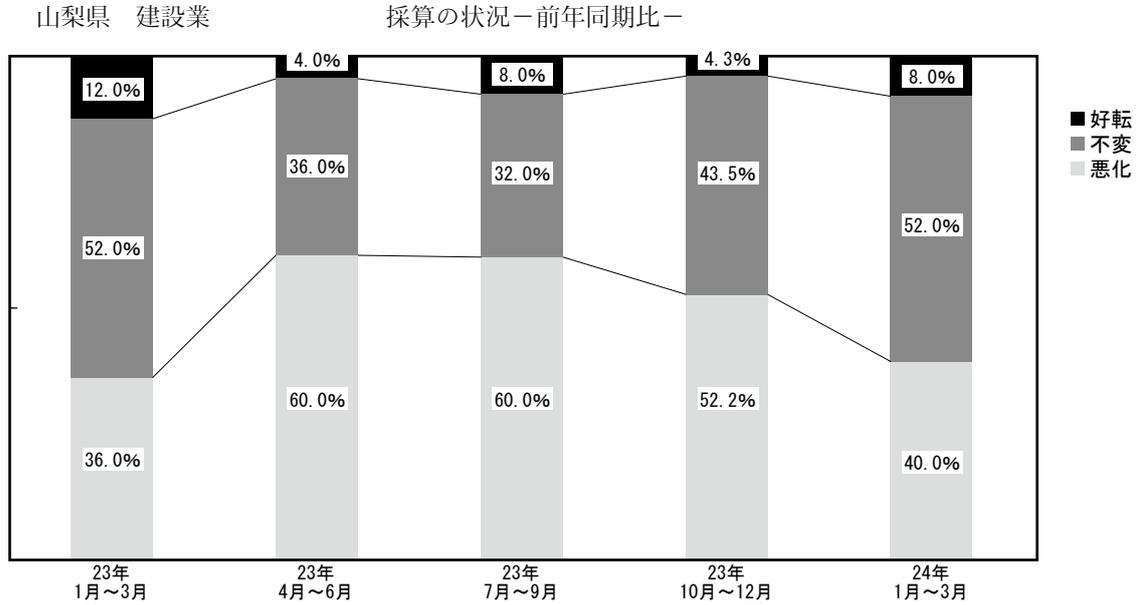
##### (1) 完成工事額

下過去1年余の「完成工事額」の状況の推移を表わしたものが下図である。今期完成工事額D I マイナス12.0の内訳をみると、「増加」が前期6社の25.0%から1社増え28.0%になった。「不変」は同じく前期6社の25.0%から2社増の32.0%、「減少」は前期50.0%から10ポイント減の40%であった。ちなみに、今期の受注（新規契約工事）額についてみると、前期D Iはマイナス20.8からかなり低下しマイナス40.0になった。来期の見通しについては、8.0ポイントの改善でマイナス32.0である。



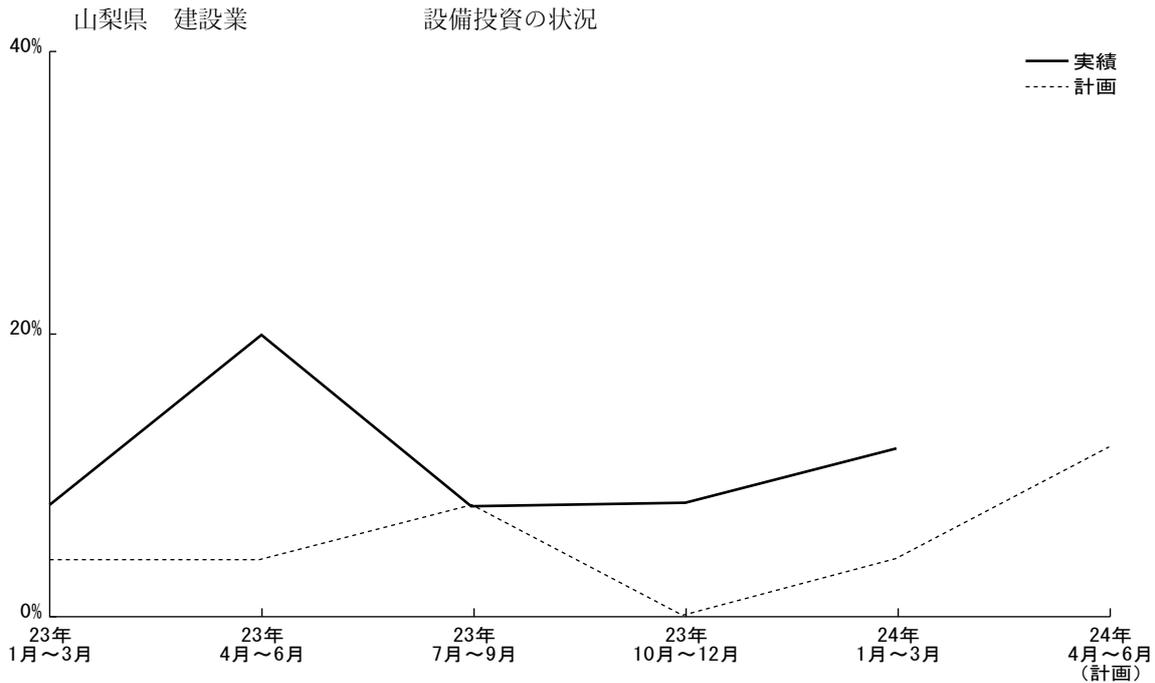
(2) 採 算

「採算」状況の詳細を見ると下図のようになる。今期採算D I マイナス 32.0 の内訳は、「好転」が前期1社の4.3%から2社になって8.0%、「不変」は10社の43.5%から3社増えて52.0%に、「悪化」は前期12社の52.2%から10社の40.0%となった。「好転」が1社の増加、「悪化」が2社の減少という改善要因で、D I の上昇に繋がったのである。



(3) 設備投資

設備投資を実施した企業は、前期2社より1社増えた。前期における今期の計画見通しが、1社であったのに2社増の結果となった。その内訳は「車両運搬具」が2件、「土地」「建設機械」「OA機器」が各1件であった。来期の計画についても、今期と同数の3社である。その内訳は、「土地」「建設機械」「車両運搬具」「OA機器」「その他」1件ずつである。ここに来て、建設業において投資意欲が出てきたといえるのであろうか。

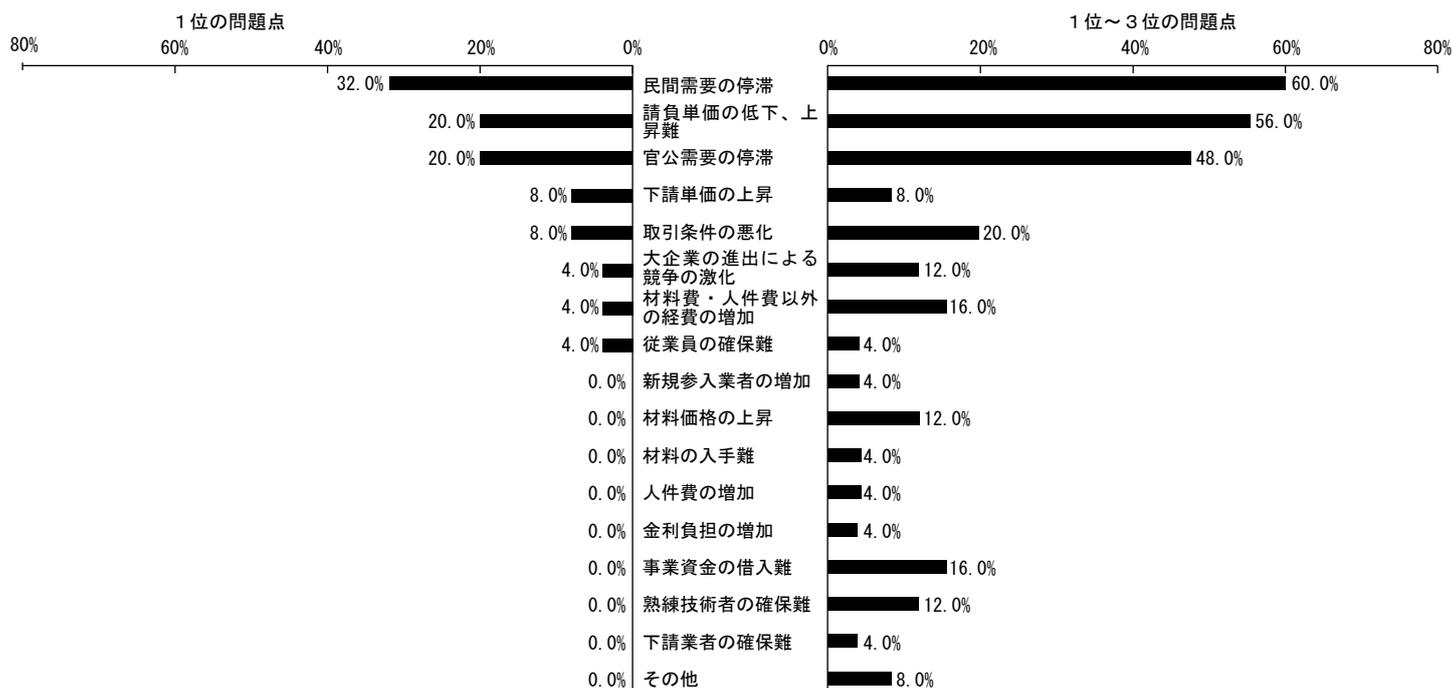


(4) 経営上の問題点

まず、「一位」に挙げたものから見ていくと、今期も相変わらず「民間需要の停滞」がトップで8社の32.0%である。続いて、「請負単価の低下、上昇難」と「官公需要の停滞」が20.0%で5社ずつが挙げている。ちなみに「請負単価の低下、上昇難」は前期4社の17.4%、そして「官公需要の停滞」は5社の21.7%であった。そのほかの項目は、2社以下が挙げるのに止まった。

「次に「一～三位」を見ると、今期は1期ぶりに「民間需要の停滞」がトップに返り咲き、前期と同じ15社が挙げ60.0%であった。続いて、「請負単価の低下、上昇難」で前期16社の69.6%から2社減り56.0%であった。3番目には12社が挙げた「官公需要の停滞」で、前期10社43.5%から2社増の48.0%である。今期もこれら3回答が際立っている。その次に続く項目は、5社にすぎない「取引条件の悪化」である。

山梨県 建設業 経営上の問題点の状況（一位と一位～三位）



(5) 回答企業の内訳

業種別

業種	企業数	構成比(%)
総合工事業	17	68.0
職別工事業	5	20.0
設備工事業	3	12.0
合計	25	100.0

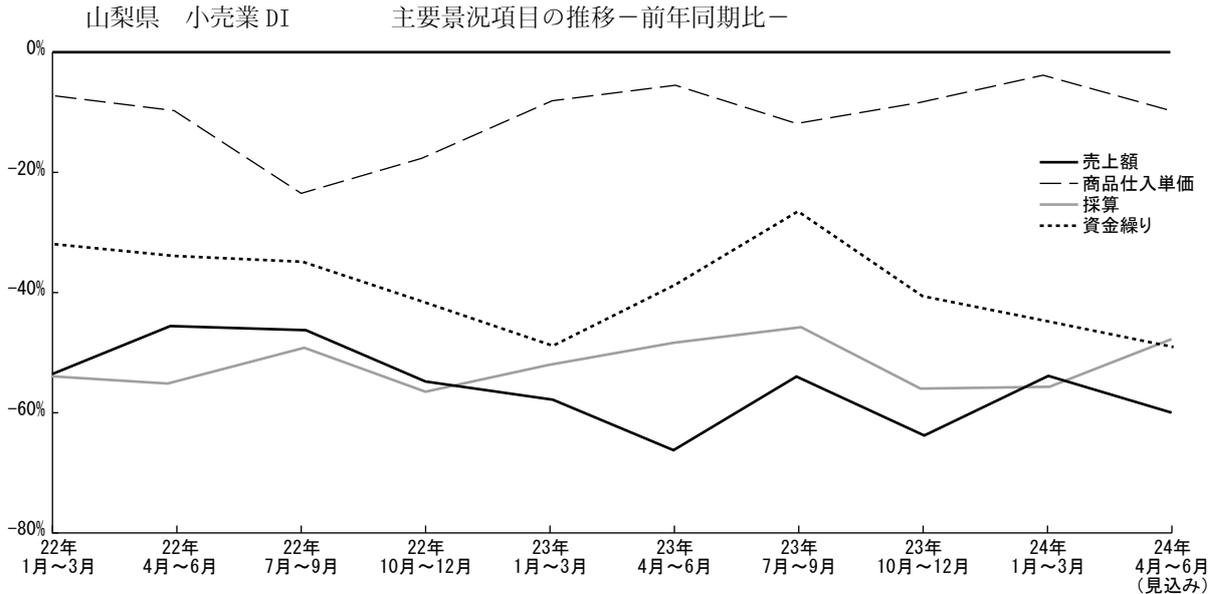
従業員規模別

従業員数	雇用形態		臨時等含む	
	常	雇	企	構
	業	比	業	成
	数	(%)	数	(%)
2人以下	8	32.0	6	24.0
3人～5人以下	6	24.0	7	28.0
6人～10人以下	3	12.0	4	16.0
11人～20人以下	6	24.0	6	24.0
21人～50人以下	2	8.0	2	8.0
合計	25	100.0	25	100.0

## 4. 小売業の動向

### 1. 景況概観

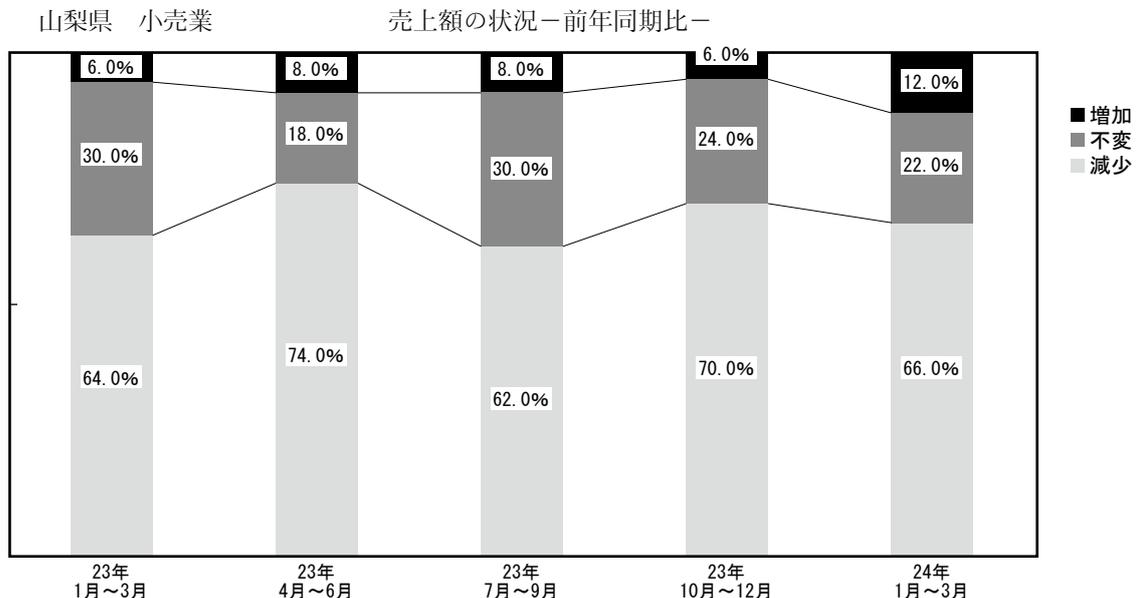
「売上額」D Iは、前期マイナス64.0であったが、今期は10ポイント改善のマイナス54.0になった。前々期にちょうど戻ったD Iである。来期の見通しについては、再び悪化のマイナス60.0である。この1年間、1期ごとに上昇と低下を繰り返す展開で推移している。商品仕入単価D Iは、前期マイナス8.0から半減してマイナスの4.0であった。2期続けての上昇であったが、来期の見通しは再びの低下でマイナス10.0である。採算D Iは、前期マイナス56.0と全く変わらない。来期の見通しは、前々期並みに戻ってのマイナス48.0である。資金繰りD Iは、前期マイナス40.8からいくらかの悪化でマイナス44.9であった。来期の見通しについては、3期続けての悪化傾向を見せてマイナス49.0である。



### 2. 主な項目で見る業況

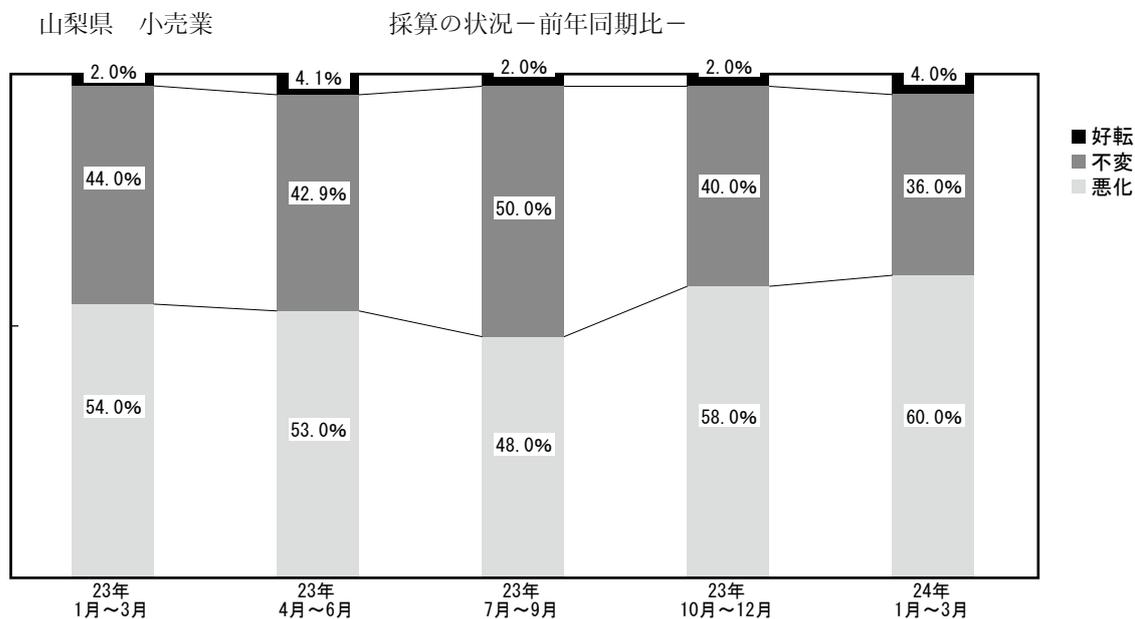
#### (1) 売上額

下図は、ここ1年間余りの「売上額」状況の推移を示したものであるが、今期の売上額D I マイナス54.0の中身を分析してみると次のとおりである。「増加」と答えた企業は、前期3社の6.0%の倍に増えて6社12.0%である。「不変」企業は、前期12社の24.0%から1社減の22.0%、「減少」企業は35社の70%から2社減の66.0%であった。



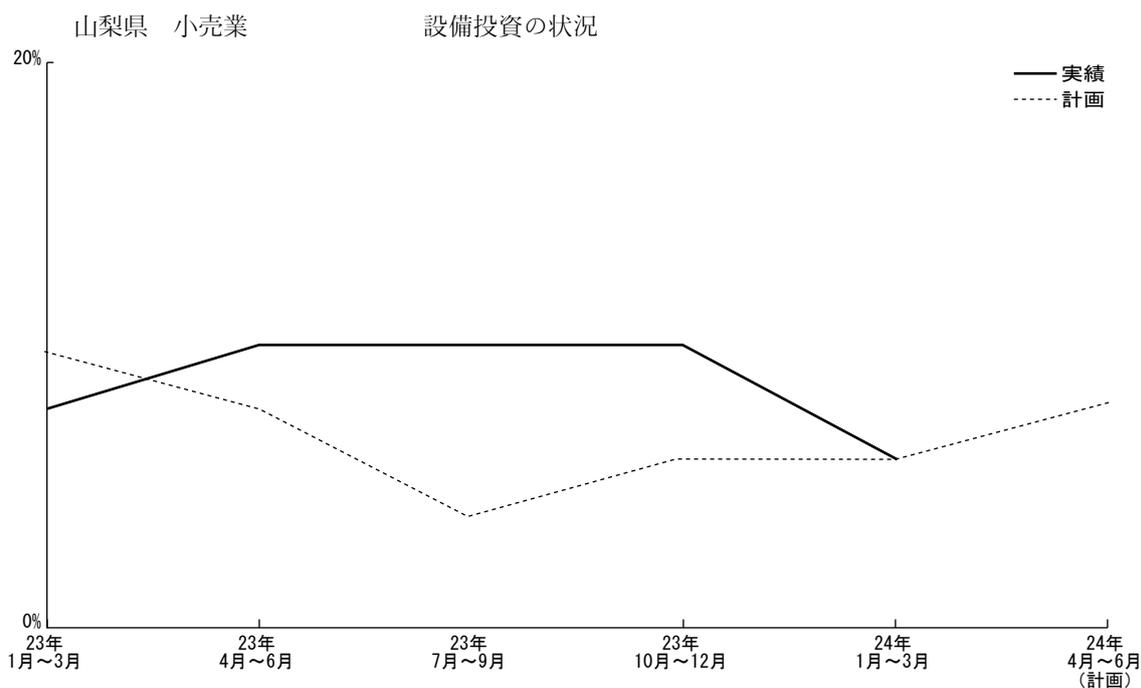
(2) 採算

下図も、この1年間余りの「採算」状況の推移を示したものである。今期の採算D I マイナス 56.0 の内訳をみると、「好転」が前期1社のみから2社に増えて4.0%、「不変」は前期20社の40.0%から2社減り36.0%に、「悪化」は前期29社の58.0%からちょうど6割の30社に増加した。今期のD I が前期と変わらなかったのは、「好転」と「悪化」がそれぞれ1社増になったことによるものである。



(3) 設備投資

小売業の今期における「設備投資」状況を見ると、3期続けて5社が実施していたが3社に減ってしまった。その内容は「店舗」「販売設備」「付帯施設」「その他」が1件ずつであった。来期に設備投資を計画している企業は、1社増えて4社が回答している。その内訳は「販売設備」が2件、「土地」「店舗」「付帯施設」「OA機器」「その他」が各1件である。久々に小売業において、土地取得からの新設店舗を計画している企業があり明るい話題である。

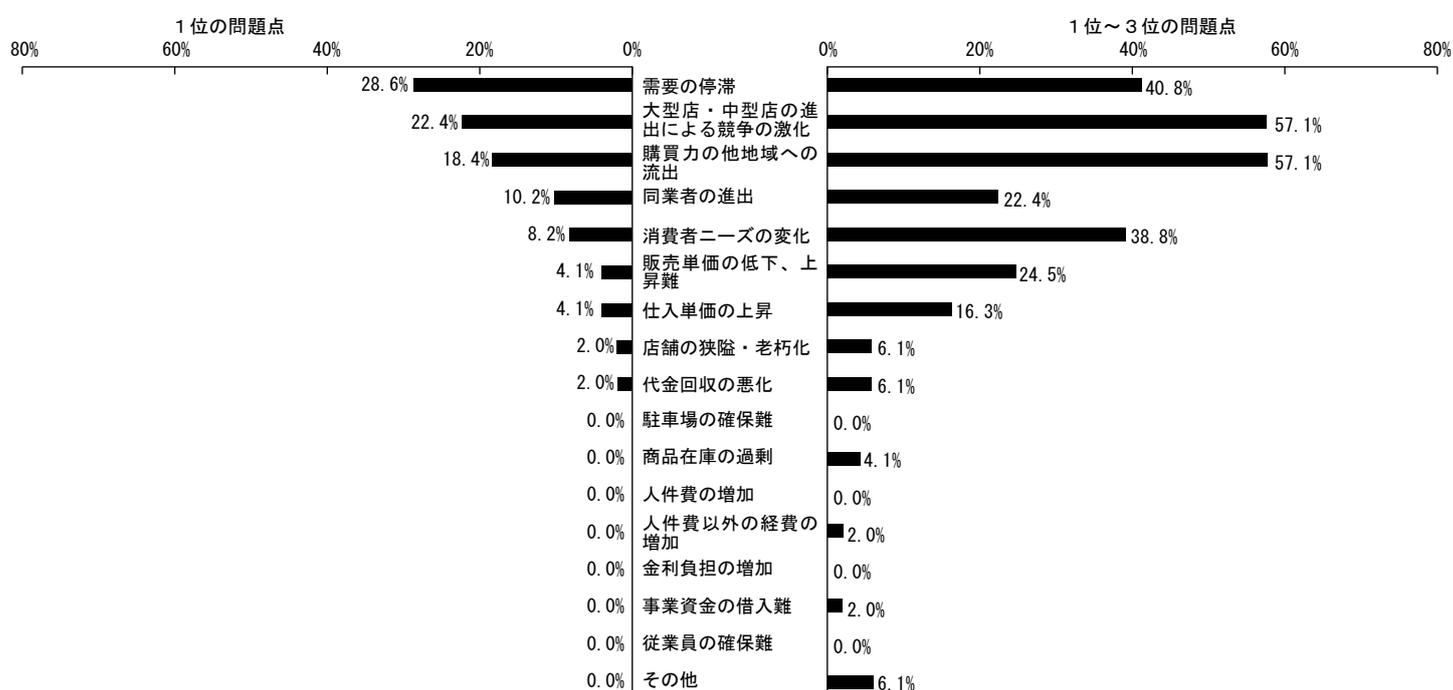


(4) 経営上の問題点

「一位」に挙げてもらったものから見ていくと、トップは相変わらず「需要の停滞」で、前期 16 社の 32.7% から 2 社減の 28.6% であった。続いて前回と同様で「大型店・中型店の進出による競争の激化」が前期 10 社 20.4% から 1 社増え 22.4% であった。三番目も前期と変わらず「購買力の他地域への流出」で前期 7 社の 14.3% から 2 社増えて 18.4% である。そして、これら 3 回答と比べ少なくなるが「同業者の進出」を 5 社、「消費者ニーズの変化」を 4 社が挙げている。

次に「一～三位」に挙げた答えをみると、「大型店・中型店の進出による競争の激化」と「購買力の他地域への流出」を 28 社ずつが答え 57.1% でトップであった。この二つの答えは、どうも因果関係にありそうである。続いて「需要の停滞」で、前期より 6 社少ない 20 社が挙げ 40.8% であった。次に多い回答は「需要の停滞」と肉薄して、「消費者ニーズの変化」で前期より 1 社少ない 19 社の 38.8% である。さらに、「販売単価の低下、上昇難」が 12 社、「同業者の進出」11 社、「仕入単価の上昇」8 社と続いている。「販売単価の低下、上昇難」と「仕入単価の上昇」が目にとまる数値になっているのは、経営上の採算の厳しさを物語っていると言えそうである。

山梨県 小売業 経営上の問題点の状況（一位と一位～三位）



(5) 回答企業の内訳

業種別

業種	企業数	構成比(%)
織物・衣服・身の回り品小売業	11	22.0
飲食料品小売業	12	24.0
自動車・自転車小売業	4	8.0
家具・建具・じゅう器小売業	7	14.0
その他小売業	16	32.0
合計	50	100.0

売場面積別

売場面積	企業数	構成比(%)
50㎡未満	26	52.0
50㎡～100㎡未満	18	36.0
100㎡～200㎡未満	4	8.0
200㎡～500㎡未満	1	2.0
500㎡～1000㎡未満	1	2.0
合計	50	100.0

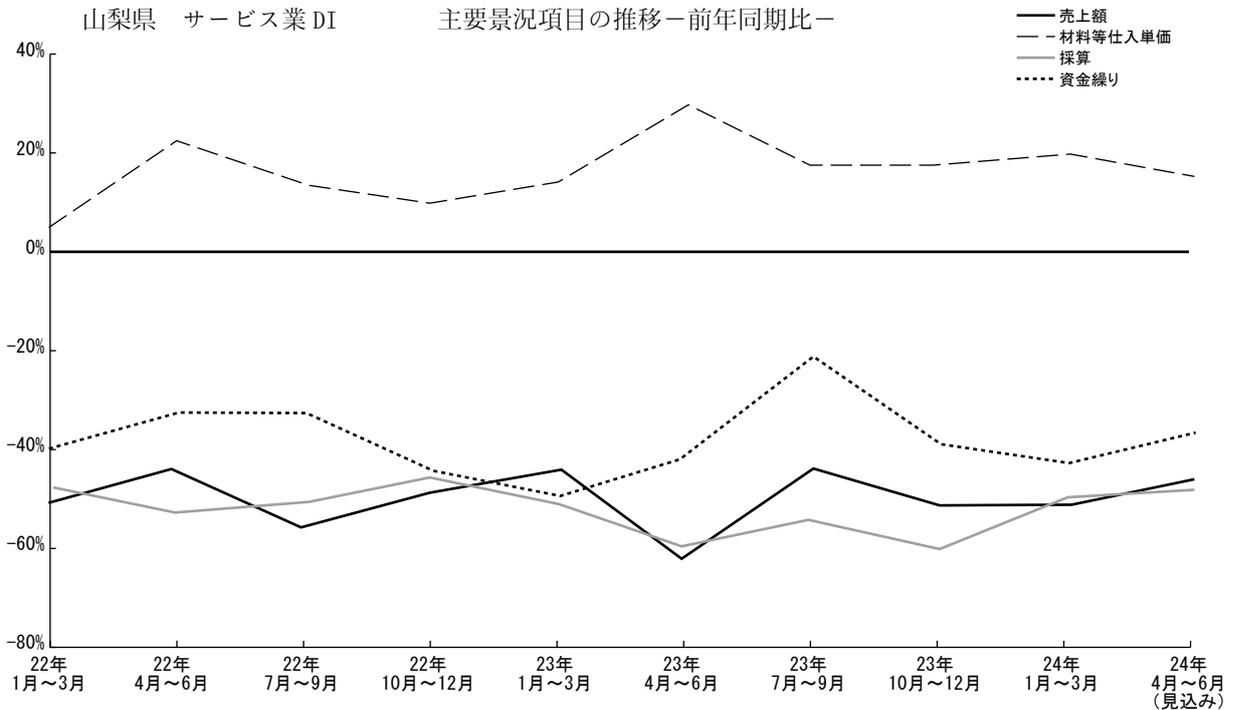
従業員規模別

従業員数	雇用形態		従業員数	
	常雇い	臨時等含む	企業数	構成比(%)
	企業数	構成比(%)	企業数	構成比(%)
2人以下	43	86.0	40	80.0
3人～5人以下	7	14.0	8	16.0
6人～10人以下	0	0.0	2	4.0
合計	50	100.0	50	100.0

## 5. サービス業の動向

### 1. 景況概観

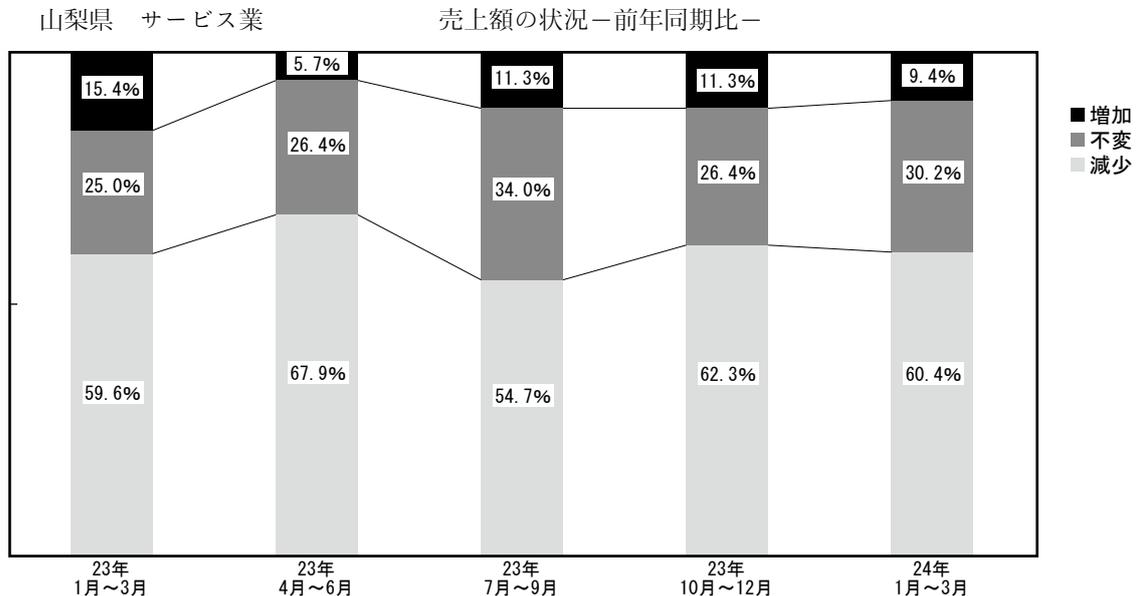
サービス業における売上額D Iは、前期マイナス51.0と変化しなかった。来期の見通しについては、いくらかの改善でマイナス46.2である。材料等仕入単価D Iは、前期17.3から2.4ポイントと小幅ながらの上昇の19.7であった。来期の見通しは僅かな改善で15.7である。採算D Iは、前期マイナス59.6からマイナス50.1と9.5ポイント改善した。来期の見通しについては、今期と2.0ポイント差というほとんど変わらないマイナス48.1である。資金繰りD Iは、前期にマイナス39.2と大きく落ち込んだが、さらに悪化のマイナス42.3になった。来期の見通しは、5.7ポイントの改善でマイナス36.6である。



### 2. 主な項目で見る業況

#### (1) 売上額

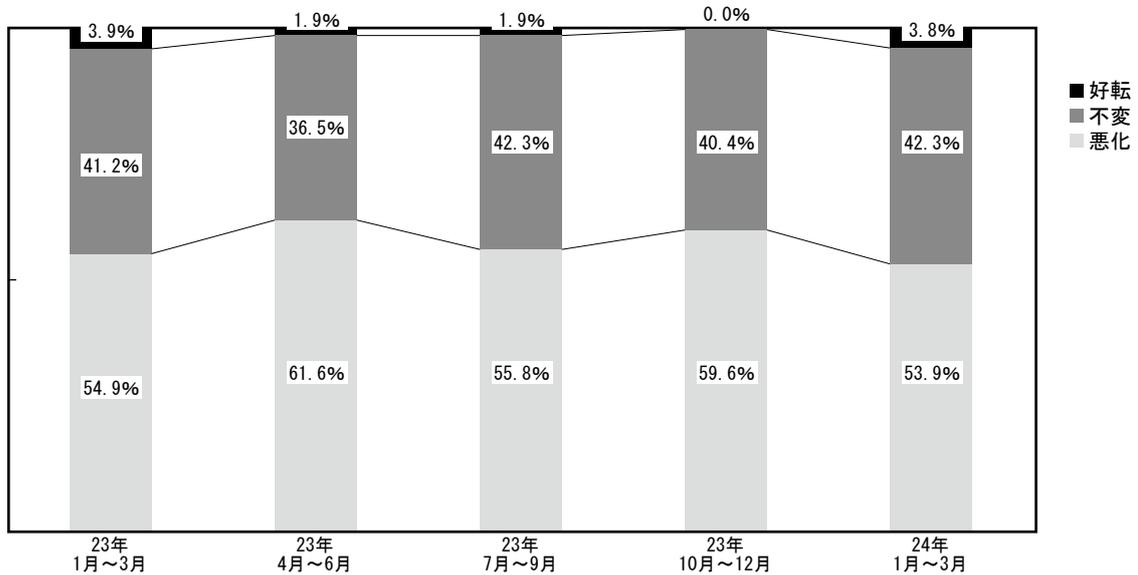
この1年間余りの「売上額」の推移状況から、当期売上額D I マイナス51.0の分析をすると「増加」が前期6社の11.3%から5社になり9.4%、「不変」は前期14社の26.4%から2社増の30.2%に、「減少」は前期33社の62.3%から1社減の60.4%となった。前期と変わらないD Iの要因は、「増加」および「減少」がそれぞれ1社ずつ減ったことによるものである。



(2) 採 算

今期採算D I マイナス 50.1 の内訳は、「好転」が前期ゼロであったが2社が答え 3.8%となった。「不変」は前期 21 社の 40.4% から1社増えて 42.3%に、「悪化」は前期 31 社の 59.6% から3社減の 53.9%となった。今期D I の改善は、3社が「悪化」から「好転」と「不変」に転じたためである。

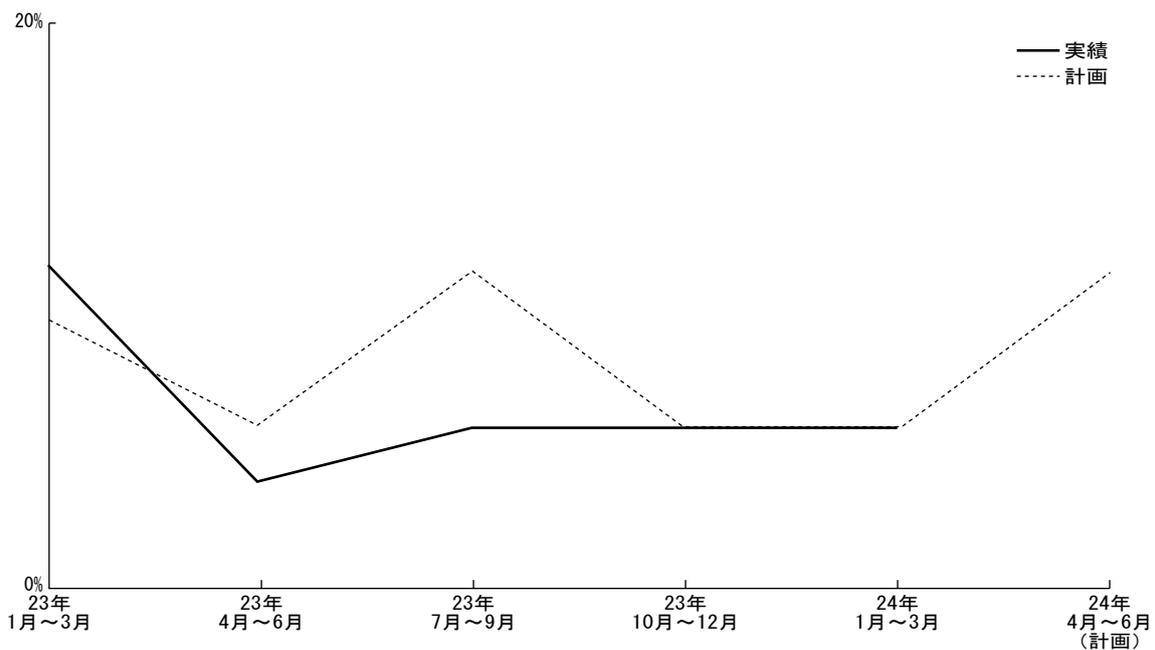
山梨県 サービス業 採算の状況—前年同期比—



(3) 設備投資

サービス業で「設備投資」を行った企業は、3期続けて3社で5.7%であった。その内容は「建物」が2件と「車両・運搬具」1件であった。来期の計画については、今期の倍の6社が予定している。「建物」が3件、「土地」が2件と久々の大型の投資が複数計画されている。また、「車両・運搬具」が2件、「サービス」「OA機器」「その他」が各1件予定されている。サービス業は、今期と来期において大型の投資が実施または計画され明るい兆しも見える。

山梨県 サービス業 設備投資の状況

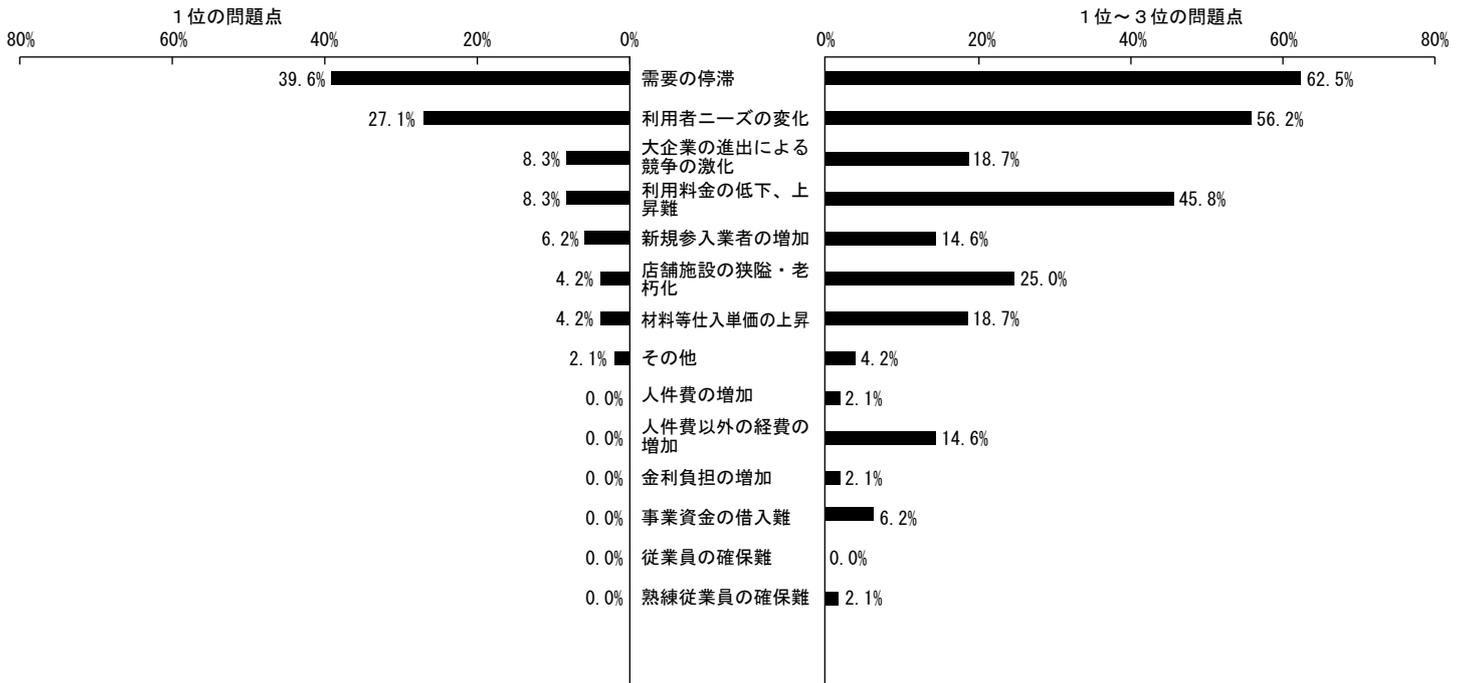


(4) 経営上の問題点

サービス業の「経営上の問題点」は、「一位」に挙げた項目の中で最も多い回答は相変わらず「需要の停滞」で、前期18社の34.6%から1社増の39.6%であった。続いて前期と同じ「利用者ニーズの変化」が多く、前期11社の21.2%から2社増の27.1%。3番目に多い答えは、上位これら2つの回答と比べるとかなり少ない4社の8.3%に落ちる。「大企業の進出による競争の激化」と「利用料金の低下、上昇難」が並んだ。ちなみに、前者は前期10社の19.2%、後者は同じく5社の9.6%であった。

次に、「一～三位」に挙げたものを見ると、こちらも「需要の停滞」が最も多く前期59.6%から62.5%に上がり30社が答えた。次に多いのは、前期にトップに並んだ「利用者ニーズの変化」で、前期より3.4ポイント低下して27社が答えた。続いて「利用料金の低下、上昇難」で前期19社の36.5%から3社増えて45.8%であった。さらに「店舗施設の狭隘・老朽化」が12社の25.0%、「大企業の進出による競争の激化」と「材料等仕入単価の上昇」が各9社の18.7%で続いている。

山梨県 サービス業 経営上の問題点の状況（一位と一位～三位）



(5) 回答企業の内訳

業種別

業種	企業数	構成比(%)
一般飲食店	13	24.5
宿泊業	8	15.1
自動車整備業	5	9.4
洗濯・理美容業	20	37.7
その他のサービス業	7	13.2
合計	53	100.0

従業員規模別

従業員数	雇用形態		臨時等含む	
	企業数	構成比(%)	企業数	構成比(%)
2人以下	42	79.2	37	69.8
3人～5人以下	6	11.3	9	17.0
6人～10人以下	4	7.5	5	9.4
11人～20人以下	1	1.9	1	1.9
21人以上	0	0.0	1	1.9
合計	53	100.0	53	100.0